

一般質問

汽船航路は 重要な島民の生活の足 料金の軽減に全力を



稲辺茂樹 議員

質問 4月に行われた佐渡汽船航路の社会実験の結果は。

市長 今回の実験は、3月23日の記者発表から実施までの期間が短かったということもあるが、各関係機関が宣伝、誘客活動等を懸命に行った結果、実験期間中の佐渡航路利用者は、ジェットfoil、カーフェリー合わせて11万3689人で対前年で8804人の増、8・4%の増加であった。内訳は、ジェットfoil、カーフェリーとも県内客が増加し、合計で6038人の増、21・6%の増加となった。とりわけ、ジェットfoilの

個人客が大幅に増加していることから、社会実験の効果があつたと考える。要因としては、県内の告知及び周知に県が努力した結果であり、またジェットfoil、カーフェリーとともに団体客が増加しているのは、がんばろう新潟佐渡キャンペーン等のエージェントによる効果も大きかったと考えられる。

質問 実験から考察される今後の問題点と課題は。

市長 ジェットfoilは、個人・団体ともに大きく伸びたが、カーフェリーは団体が伸びた反面、個人については、減となり割引による増員効

果はなかった。島内の利用者は、ジェットfoilは増加したが、カーフェリーは減少になった。カーフェリーについては、航送料の割引等で利用客を伸ばすことが課題となる。

質問 社会実験中のアンケート調査結果について。

市長 調査は、4月17日と23日の両日に両津発カーフェリー2便、ジェットfoil2便、小木発カーフェリーの1便の計5便を対象として行なった。回収状況は配布1958に対し、1456で回収率は74・4%であった。主な結果では、再

度来島したいが、79%と多かったのに対し、運賃については、ジェットfoilが、「高い」「やや高い」と答えた数が33%と多く、カーフェリーについては「ちょうどいい」が39%であった。また、満足状況では、交通アクセスが44・8%と低く今後の課題として現れている。

質問 9月に行われる社会実験は、どのような内容で行われるのか。

市長 秋の社会実験は、全部島外からの利用者に向けて行う。料金は、航送料往復運賃が通常の概ねに割引、ジェットfoil、カーフェリーの割引も行う。それ以降は未定である。

質問 4月の実験及び秋の実験は、中越大地震による、観光の風評被害に對する策として行われているのか、それとも島民の悲願を受けて行っているのか。

市長 震災の風評被害対策の重要な施策として行った。4月の場合は、島内発も行った。これはある意味で付け足しみたいなもので、批判は受けているが、基本的には風評被害対策である。

質問 離島であるが故にアクセスが限定されている佐渡においては、汽船航路が重要な生活の足である。佐渡汽船航路の運賃の軽減及びダイヤの改正は、島民の悲願であると考えるが、認識はあるのか。

市長 そのとおりである。前回の実験はあくまでも実験にしか過ぎない。最終的には佐渡汽船の料金をいくらにするかという問題であり、そのワンステップと考えている。そのためには、佐渡汽船の収益も考えなければならぬ。その上で料金体系を考えなければならぬ。そのためのデータ取りが必要だ。